

じしんがきた



え・ぶん

かつのみさき みやじまあかね ももせともか



ここはやまのほいくえんです。

こどもたちはきょうもげんきにあそんでいます。

「たぬこせんせい、ぼくおそとであそぶね。」とくまくんは
いって、そとにむかってはしりだしました。

そのとき



ガラガラグラーツ

おへやがおおきくゆれました。じしんです。

「わーっ！」

「みんな、はやくつくえのしたにかくれて!!」とたぬこせん
せいはさげびました。

みんなはつくえのしたにかくれてじっとしています。

つくえがゆれて、はさみやえほん、クレヨンもうえからおちて
きました。



しばらくするとゆれがおさまりました。

「あーこわかった。」うさこがいました。

たぬこせんせいが「みんなだいじょうぶ？」ときくと

「うん、へいきだよ。」とケロくんがこたえました。



たぬこせんせいが「みんなこれからそとへにげますよ。
にげるときの『おはし』のおやくそくをまもってね。」という
と「はい。」とみんながへんじをし、たぬこせんせいのあと
につづきます。





そとへにげると、やぎえんちょうがしんぱいそうにまっていた
ました。「みんなだいじょうぶだったかい。」とやぎえん
ちょうがきくと

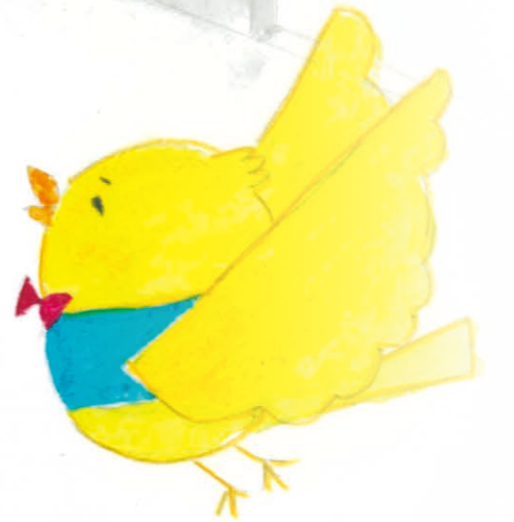
「だいじょうぶ。ぼくたち『おはし』でにげてきたんだよ。」
とみんながいました。

「そとにいたみんなはどうしていたの。」ととりくんがたず
ねます。



そとにいたモンきちが「ぼくたちはじめんにしゃがんでいたよ。みんながいるからって、おへやにもどっちゃいけないんだって。」とこたえました。





たぬこせんせいは「とてもたいせつなことだから、にげるときの『おはし』のおやくそくを、もういちどおもいだしてみましょう。」とこどもたちにいいました。



「おはしの『お』は、おさないの『お』だよ。」とくまくん
がこたえます。

たぬこせんせいは「よくおぼえていたわね。」といました。

「おはしの『は』は、はしらないの『は』だよ。」とこんどはうさこがこたえます。

「そうね。おへやにはうえからおちてきたものがあったりして、はしってにげるところんじゃうよね。おちついてあるこうね。」とたぬこせんせいがいました。



「おはしの『し』は、しゃべらないの『し』。」ととりくん
がいました。

「おしゃべりしていると、どこににげればいいのかわからなく
なってしまうわね。

せんせいのいうことは、しっかりときいてね。

みんなちゃんと『おはし』をおぼえられていてえらいわね。」

とたぬこせんせいはこどもたちをほめました。



「だれもけがなくにげられてよかったね。」やぎえんちょう
がいました。

「こわかったけれど、『おはし』をまもってひなんできた
よ。」とこどもたちがいました。

さあ、みんなもじしんがきたときおちついてひなんできるかな？





あ と が き

幼児教育学科に学ぶ私たちは、子どもたちにも幼い頃から防災意識をもってもらい、長野県内でも起きている地震発生の際の避難方法に着目し、合言葉「お・は・し」と屋外で遭遇した時の避難の方法を絵本としました。

この絵本は長野市との幼児防災啓発連携事業として制作したものです。

この本を作った人たち

え ぶん 長野県短期大学幼児教育学科3年 造形表現Ⅱ
勝野美咲、宮嶋 茜、百瀬友香
監 修 長野県短期大学幼児教育学科造形研究室 小林亮介
長野市危機管理防災課 山口正樹
印刷製本 信光社
発 行 2015年11月